

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01693

研究課題名（和文）大学の質保証を支える教育プログラムの評価と改善の好循環システムに関する研究

研究課題名（英文）Study on Building Reinforcing Loops to Evaluate and Improve Educational Programs for University Quality Assurance

研究代表者

鳥居 朋子 (Torii, Tomoko)

立命館大学・教育開発推進機構・教授

研究者番号：10345861

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、専門分野の違いに着目しながら、教育プログラムの評価と改善の好循環に関するグッドプラクティスおよび課題を明らかにした。さらに、日本の大学において教育プログラムの評価と改善の好循環をシステムとして形成する際に考慮すべき点や、システム構築上の要件等の抽出・整理を行った。その上で、研究成果やグッドプラクティスを共有するための5つの指針および120例のすぐれた実践から成るティップスを開発した。総合的な研究成果として、研究代表者および研究分担者らが執筆者となる『大学の質保証における教育プログラムの評価と改善：IR機能を活用した好循環づくりのティップス』を出版し、研究成果を広く公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学の質保証を実現するために、学部等における教育プログラムの評価と改善の好循環を促すシステムについて、ブレシアーニ (Bresciani) による成果に基づくプログラム・レビューのモデル等に基づき、日本の大学の文脈やIRの状況に合わせたモデルを構築した点に学術的意義がある。なおかつ、日本の大学において教育プログラムの評価と改善の好循環システムを形成する際に考慮すべき点やシステム構築上の要件等の抽出・整理を行った上で、研究成果やグッドプラクティスを共有するための5つの指針および120例のすぐれた実践から成るティップスを開発し、各大学での応用に資するよう公表した点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we identified good practices and challenges in the cyclical process of evaluating and enhancing educational programs, with an emphasis on differences across specialized fields. Additionally, we extracted and organized key considerations for establishing an effective system for the evaluation and improvement of educational programs at Japanese universities, along with the essential requirements for its implementation. Based on these findings, we developed five guidelines to facilitate the dissemination of research outcomes and good practices, complemented by 120 examples of excellent practice. As a comprehensive outcome of this research, we published "Evaluation and Improvement of Educational Programs in University Quality Assurance: Tips for Creating a Virtuous Cycle Using the IR Functions," authored by the principal researcher and co-researchers, thereby making the research results widely accessible.

研究分野：高等教育

キーワード：教育プログラムの評価と改善 質保証 教学マネジメント 好循環システム ティップス IR

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

大学および高等教育機関では、教育の質保証と成果の可視化という国際的な課題を受け、日々生成されるデータや情報を組織的に管理すべき資産 (asset) として尊重し、意思決定や説明責任に自律的に活用するという取り組みが展開されている。とくに、インスティテューショナル・リサーチ (Institutional Research : IR) の実践が先行する米国や英国では、学内で様々なデータを組織の文脈に応じて教学マネジメントに活用していることに加えて、全国規模の大学情報を発信するポータルサイト (College Portrait や Unistats 等) を通して比較可能な情報を社会に示している。

日本では、2018年度からスタートした第3期認証評価において、大学-プログラム-授業の三側面に着目した内部質保証が一層重視されていることにあわせ、大学独自のウェブサイトや「大学ポートレート」等の運用を通じた教育情報の主体的な活用および公表が推進されている。なおかつ、大学の理念・目的や学位プログラムの目標に照らしつつ、全学及び学部の教育成果を自律的に検証する際に、意思決定に利用可能なデータを提供するIRの機能の貢献が期待されている。

しかしIR機能が開発途上にある日本では、学内において教育改善にデータを活用し、なおかつ学外への説明責任にデータを活用する方法の検討は研究的にも実践的にも緒に就いたばかりであり、根拠に基づく教育プログラムの評価と改善の循環はシステムとして構築されていない。過去に研究代表者らが実施した全国大学調査等の分析結果からも、Plan-Do-Check-Actのマネジメントサイクルの中で、Check(評価)とAct(改善)を推進する手法に教育現場の強いニーズがあることが確認されており(岡田・高野, 2015) 内部質保証の担い手がとくに評価と改善の局面で苦心している実態が浮かび上がっていた。こうした状況から、大学の質保証を実質的に支える学部レベルの取り組みに関して、専門分野に依拠する教育プログラムの評価と改善において好循環を生み出すことに寄与する理論や方法の解明は重要な課題となっている。とくに、各大学が主体的かつ自律的に内部質保証を実現し説明責任を果たすために、「大学の質保証を支える教育プログラムの評価と改善の好循環を促す要件とは何か」という学問的問いに答えることは喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学の質保証を支える学部等における教育プログラムの評価と改善の好循環を促すシステムのあり方を解明することにある。ただし、複雑な組織体である大学では、さまざまな教育プログラムの評価と改善を画一的に進める方法は馴染まず、またその多様性ゆえに、教育プログラムの教育成果の総和が単純に全学の教育成果とはならない点に教学マネジメントの極めて重要な課題がある。そこで、本研究では Volkwein (2010) のモデル等を参照しつつ、大学の重層的かつ水平的な広がりを持つ組織構造を重視する。具体的には、全学レベルの質保証及び教育成果の可視化の前提として、専門分野の固有性をふまつつ学部レベルの教育プログラムの評価と改善の局面に注目し、それらの好循環を生み出す要件を解明する点に学問的な独自性がある。これにより、各教育プログラムの教育成果を全学の教育成果に統合する上での基礎的な知見を得ることを目指す。

なおかつ、本研究は学位プログラム及び付加的なプログラムに着目する点でも学問的な独自性を持つ。近年学位プログラムとともに、学位には直結しない付加的なプログラムを提供し、それらを総合して教育プログラムと見なし内容の充実を図る取り組みが注目されている(南部・中島, 2017)。とりわけ、リメディアル・プログラムや語学力向上プログラム等の付加的なプログラムは、進学率の上昇によって学生の多様化が進む大学で重要となっていることから、これらのプログラムも検討対象に含める。

3. 研究の方法

本研究は大学の質保証を支える教育プログラムの評価と改善の好循環システムの要件を明らかにするため、海外と日本の比較ならびに全国調査(量的調査)や訪問調査(質的調査)による実証的方法により、研究期間で下記の5点を一体的に進める。まず、教育プログラムの評価と改善に関する文献調査等をふまつつ、国内外の大学への訪問調査およびフォローアップ調査を実施する。とくに、(1) 大学の教育プログラムの評価と改善の好循環システムの先進事例を検討するため、英国等の大学への訪問調査を行い、すぐれた循環システムの要件を抽出する。なおかつ、日本の大学を対象に、(2) 全国的な量的調査を行い、教育プログラムの評価と改善に関わる最新の実態分析や主要な問題の特定を行うとともに、(3) 学習成果測定(標準テスト等の直接評価および学生調査等の間接評価)や教育プログラムの評価を推進している大学(例:自然、人文、社会、学際等の学部を複数選定)、および量的調査の結果を基に選定された大学への訪問調査を実施する。各大学の文脈に即した質的調査によって、専門分野の違いに着目しながら教育プログラムの評価と改善の循環に関するグッドプラクティスおよび課題を明らかにする。並行して、(4) 日本の大学において教育プログラムの評価と改善の好循環システムを形成する際に考慮すべき点やシステム構築上の要件等の抽出・整理を行い、プロトタイプのティップスを作成する。さらに、(5) 日本の大学の文脈に沿って好循環システムを組織的に構築するための具体的な手法を解明

する。

以上の研究方法により、教育プログラムの評価と改善を通じて全学の質保証に繋げるための実践的な知見を基に、大学の質保証や教学マネジメントにおける新たな改革視点を提起する。また、教育プログラムの評価と改善の好循環システムを構築する際に考慮すべき点や要件等を抽出・整理した上で、評価と改善を通じて内部質保証を推進する人びとが活用可能なヒントをティップスの形にまとめて公表する。

4. 研究成果

本研究課題は、研究期間中に実施した研究の成果に立脚し、大学の質保証を支える学部等における教育プログラムの評価と改善の好循環を促すシステムの解明に向けて、日本の大学を中心に行った訪問調査およびフォローアップ調査、ならびに海外の大学の訪問調査を基に、すぐれた循環システムの要件を抽出した。さらに、2019年度に実施した日本の大学における全ての学部を対象にしたウェブ・アンケートで得たデータをもとに、大学の特徴、学部の特徴に関する要因に注目しつつ、教育プログラムの評価と改善に関わる最新の実態分析や主要な問題のさらなる特定を行った。なおかつ、各大学の文脈に即した質的調査によって、専門分野の違いに着目しながら、教育プログラムの評価と改善の循環に関するグッドプラクティスおよび課題を明らかにした。

以上の調査結果の分析と並行して、日本の大学において教育プログラムの評価と改善の好循環システムを形成する際に考慮すべき点やシステム構築上の要件等の抽出・整理を行なった。その上で、これまでに得られた知見を大学教育学会大会や日本教育工学会大会等で発表するとともに、研究成果やグッドプラクティスを共有するための5つの指針（指針1：組織体制・IR機能の整備、指針2：評価目的、方法、指標、基準の設定、指針3：データの収集方法および収集、指針4：データの分析・評価、指針5：評価結果の活用と改善）および120例のすぐれた実践から成るティップスを開発した。総合的な研究成果として、研究代表者および研究分担者らが執筆者となる『大学の質保証における教育プログラムの評価と改善：IR機能を活用した好循環づくりのティップス』（東北大学出版会）を出版し、各大学・学部における取り組みの参考に資するよう、研究成果を広く公開した。

【参考文献】

- 南部広孝・中島悠介編『付加的プログラムの展開から見たアジアの大学教育』広島大学高等 教育研究開発センター，高等教育研究叢書，134，2018.
- 岡田有司・高野篤子「共通教育マネジメントにおける PDCA サイクルとその関連要因 2014 年度全国調査の分析結果から」『大学教育学会誌』37(1)，2015，33-38.
- Volkwein, F. J., A Model for Assessing Institutional Effectiveness, *New Directions for Institutional Research*, 2010(S1),13-28.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 鳥居朋子	4. 巻 24
2. 論文標題 オーストラリア国立大学の学習・教育戦略における多様性、公正、包摂の組織的推進	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 131-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/njhe.24.131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Torii, Tomoko, Kondo, Nobuhiko, Yamamoto, Koichi	4. 巻 4
2. 論文標題 Holistic Approach to Successful Institutional Research and Institutional Effectiveness Based on Local Intelligence in Japanese Universities: Required Conditions for Bridging IR and IE	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia-Japan Research Academic Bulletin	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34389/asiajapanbulletin.4.0_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鳥居朋子・岡田有司・林 透・大山牧子・高橋哲也	4. 巻 44(2)
2. 論文標題 教育プログラムの評価と改善における教育情報の活用およびIRの現状と課題 ティップス開発に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥居朋子	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 指定討論：プログラム開発と大学構成員の多様性を考える視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 124-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田剛史	4. 巻 310
2. 論文標題 OPINION：教員主導の「学修者本位」から学生目線の「学修者本位」へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Between (進研アド)	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山牧子	4. 巻 32
2. 論文標題 授業評価アンケートの自由記述結果に基づくオンライン授業のデザイン	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 神戸大学大学教育研究	6. 最初と最後の頁 115-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/0100488363	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大山牧子・畑野快	4. 巻 47(2)
2. 論文標題 授業の経験に対するリフレクションと学習成果との関連：大学生を対象としたリフレクション尺度の開発を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 217-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jjet.46092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大山牧子	4. 巻 31
2. 論文標題 教学 IR を教育改善につなげるための課題と展望：神戸大学&広島大学共同高等教育公開セミナーの報告	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神戸大学大学教育研究	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/0100481698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鳥居朋子・岡田有司・山田剛史・林透・高橋哲也・村上正行・串本剛・大山牧子	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 学部における教育情報の活用およびIRの現状と課題-全国調査と事例研究の分析を通して-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 89-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大田桂一郎・鳥居朋子・古賀知典・蒲生諒太	4. 巻 22
2. 論文標題 内部質保証システムの充実に向けた卒業生(校友)調査実施に関するノウハウの構築 - 『卒業生(校友)調査ハンドブック』の作成を通して -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館高等教育研究	6. 最初と最後の頁 165-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林透・大関智史	4. 巻 20
2. 論文標題 英国の大学における教育プログラム評価に関する考察：日本の高等教育における教学マネジメント発展のための視座	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 115-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋哲也	4. 巻 20
2. 論文標題 高等教育における学習成果の設定と測定について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田剛史	4. 巻 1
2. 論文標題 ニューノーマルの学習評価をどう考え、実践するか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育と情報	6. 最初と最後の頁 16-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸彦・山本幸一・鳥居朋子	4. 巻 -
2. 論文標題 IRとIEの包括的な推進に関する事例検索システム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第9回大学情報・機関調査研究集会論文集	6. 最初と最後の頁 154-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥居朋子	4. 巻 20
2. 論文標題 立命館大学における内部質保証の取り組み - 内部質保証システムの特質および課題を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館高等教育研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鳥居朋子	4. 巻 23
2. 論文標題 大学における教育と評価のマネジメント - 内部質保証の推進課題としての捉えなおし -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高等教育研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okada, Yuji & Torii, Tomoko	4. 巻 42-1
2. 論文標題 Process Model of Educational Information Management in Institutional Research for Education and Students	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Educational technology research	6. 最初と最後の頁 313-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/etr.43102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 鳥居朋子・岡田有司・大山牧子・林透・串本剛・村上正行・高橋哲也・山田剛史
2. 発表標題 大学における教育プログラムの評価および改善の好循環創出のためのティップス開発
3. 学会等名 日本教育工学会2023秋季全国大会 (第43回)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鳥居朋子・岡田有司・林透・大山牧子・高橋哲也・串本剛
2. 発表標題 教育プログラムの評価と改善における教育情報の活用およびIRの現状と課題 - ティップス開発に向けて -
3. 学会等名 大学教育学会第44回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 プログラム開発における評価フェーズへのまなざし
3. 学会等名 大学教育学会2023年度課題研究集会課題研究シンポジウム 「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Torii, Tomoko
2. 発表標題 Promoting diversity, equity, and inclusion in universities: An international comparative perspectives from Australia and Japan
3. 学会等名 UK and Ireland HEIR Network 2023 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 オーストラリア国立大学における多様性、公正、包摂の組織的推進に関する研究
3. 学会等名 大学教育学会第45回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 矢田尚也・中口悦史・村上正行
2. 発表標題 大阪大学SLiCSセンターにおける教学IRの取り組み
3. 学会等名 日本教育工学会2023年秋季全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鳥居朋子・岡田有司・山田剛史・林 透・高橋哲也・村上正行・串本 剛・大山牧子
2. 発表標題 学部における教育情報の活用およびIRの現状と課題-全国調査と事例研究の分析を通して-
3. 学会等名 大学教育学会第43回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 大学のIRと学習・教育改革の動向 - パンデミック影響下の取り組み等を手がかりに -
3. 学会等名 東京大学教育学研究科学学校教育高度化・効果検証センター 研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 大学構成員の多様性とプログラム開発の視点から(指定討論)
3. 学会等名 大学教育学会課題研究集会課題研究シンポジウム 「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋哲也
2. 発表標題 高等教育における学習成果の設定と測定について
3. 学会等名 大学評価研究所公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋哲也
2. 発表標題 高等教育における教育情報の活用について
3. 学会等名 第17回医療系eラーニング全国交流会年次大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田有司・鳥居朋子・村上正行
2. 発表標題 学部における教育情報の活用の現状と課題
3. 学会等名 大学教育学会第42回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Torii, Tomoko, Kondo, Nobuhiko, Yamamoto, Koichi
2. 発表標題 A Holistic Approach to Successful IR/IE
3. 学会等名 Association for Institutional Research 2020 Forum Virtual-Select Poster Session (peer reviewed) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤伸彦・山本幸一・鳥居朋子
2. 発表標題 IRとIEの包括的な推進に関する事例検索システム
3. 学会等名 第9回大学情報・機関調査研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 内部質保証の実現に向けた教育プログラムの自己点検・評価 - 立命館大学の事例を手がかりに -
3. 学会等名 大学基準協会スタディー・プログラム (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鳥居朋子・仲真紀子・増田至・金剛理恵
2. 発表標題 モニタリングとレビューに基づく内部質保証システム
3. 学会等名 大学コンソーシアム京都第26回FDフォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 内部質保証における学習成果検証結果の活用のあり方 - 調査結果や取組事例を手がかりに -
3. 学会等名 大学基準協会大学評価研究所大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田剛史
2. 発表標題 オンライン授業での学習評価をどう考え、実践するか
3. 学会等名 私立大学情報教育協会教育イノベーション大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鳥居朋子・森朋子
2. 発表標題 大規模私立大学における内部質保証システムの有効性 -立命館大学および関西大学の事例検討を通じて-
3. 学会等名 日本教育学会第78回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Torii, Tomoko
2. 発表標題 IR/IE Engaging with Policy: An International Perspective
3. 学会等名 Association for Institutional Research 2019 Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 立命館大学における内部質保証の推進 第3期認証評価の経験をふまえた到達点と課題
3. 学会等名 立命館大学大学評価・IR室開設記念シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 立命館大学における内部質保証の取り組み 第3期認証評価の経験をふまえて
3. 学会等名 大阪市立大学 全学FD事業・大学教育再生加速プログラム(AP)第27回教育改革シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥居朋子
2. 発表標題 教学マネジメントを支える機能強化の取り組み - 立命館大学の内部質保証システムに注目して -
3. 学会等名 日本私立大学連盟 学長会議(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大山牧子・中美緒・村上正行・宇野勝博・杉山清寛
2. 発表標題 専門重視型初年次教育における「わかりやすさ」要素の抽出 大阪大学初年次教育科目学問への扉を事例に
3. 学会等名 第26回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上 正行・和嶋 雄一郎
2. 発表標題 gradSERUの調査に基づく大学院生の学習実態
3. 学会等名 大学教育学会2019年度課題研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上正行・安部有紀子・中美緒・和嶋雄一郎・杉山清寛・宇野勝博
2. 発表標題 大阪大学における全学初年次教育「学問への扉」の実践と評価
3. 学会等名 第26回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田剛史・勝間理沙・長沼祥太郎・岡本雅子・酒井博之
2. 発表標題 MOOC・SPOC を核とした持続的な教育改善・質的向上をどう実現するか
3. 学会等名 大学ICT推進協議会2019年度年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林透
2. 発表標題 山口大学における学位プログラム単位の質保証～YU CoB CuSによる学修成果可視化の可能性～
3. 学会等名 AP事業 北九州合同セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayashi, Toru
2. 発表標題 Curriculum-Based Assessment in Japanese Universities: focusing on Learning Outcomes of Individual Student
3. 学会等名 SRHE Newer and Early Career Researchers Conference 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 鳥居朋子編（鳥居朋子・岡田有司・大山牧子・串本剛・村上正行・山田剛史・林透・高橋哲也）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 大学の質保証における教育プログラムの評価と改善：IR機能を活用した好循環づくりのティップス	

1. 著者名 大学基準協会監修 / 早田幸政編著、鳥居朋子（第6節執筆担当）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 416
3. 書名 「学習成果」の可視化と達成度評価 その現状・課題・展望（JUAA選書17）	

1. 著者名 岩崎千晶・田中俊也編著、山田剛史（第16章執筆担当）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 学びを育む 教育の方法・技術とICT活用 教育工学と教育心理学のコラボレーション	

1. 著者名 萩原広道・佐野泰之・杉谷和哉・須田智晴・谷川嘉浩・真鍋公希・三升寛人・大山牧子（第11・12章執筆担当）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 290
3. 書名 京大発 専門分野の越え方：対話から生まれる学際探求	

1. 著者名 鳥居朋子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 188
3. 書名 大学のIRと学習・教育改革の諸相：変わりゆく大学の経験から学ぶ	

1. 著者名 高等教育のあり方研究会教育プログラム評価のあり方に関する調査研究部会編著（鳥居 朋子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大学基準協会	5. 総ページ数 142
3. 書名 教育プログラム評価ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 有司 (Okada Yuji) (10584071)	東京都立大学・大学教育センター・准教授 (22604)	
研究分担者	高橋 哲也 (Takahashi Tetsuya) (20212011)	大阪公立大学・その他部局等・副学長 (24405)	
研究分担者	林 透 (Hayashi Toru) (20582951)	金沢大学・教学マネジメントセンター・教授 (13301)	
研究分担者	村上 正行 (Murakami Masayuki) (30351258)	大阪大学・全学教育推進機構・教授 (14401)	
研究分担者	山田 剛史 (Yamada Tsuyoshi) (40379029)	関西大学・教育推進部・教授 (34416)	
研究分担者	大山 牧子 (Oyama Makiko) (70748730)	神戸大学・大学教育研究センター・准教授 (14501)	
研究分担者	串本 剛 (Kushimoto Takeshi) (60457835)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授 (11301)	2021年4月1日削除

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	串本 剛 (Kushimoto Takeshi)		2021年4月2日追加

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関